

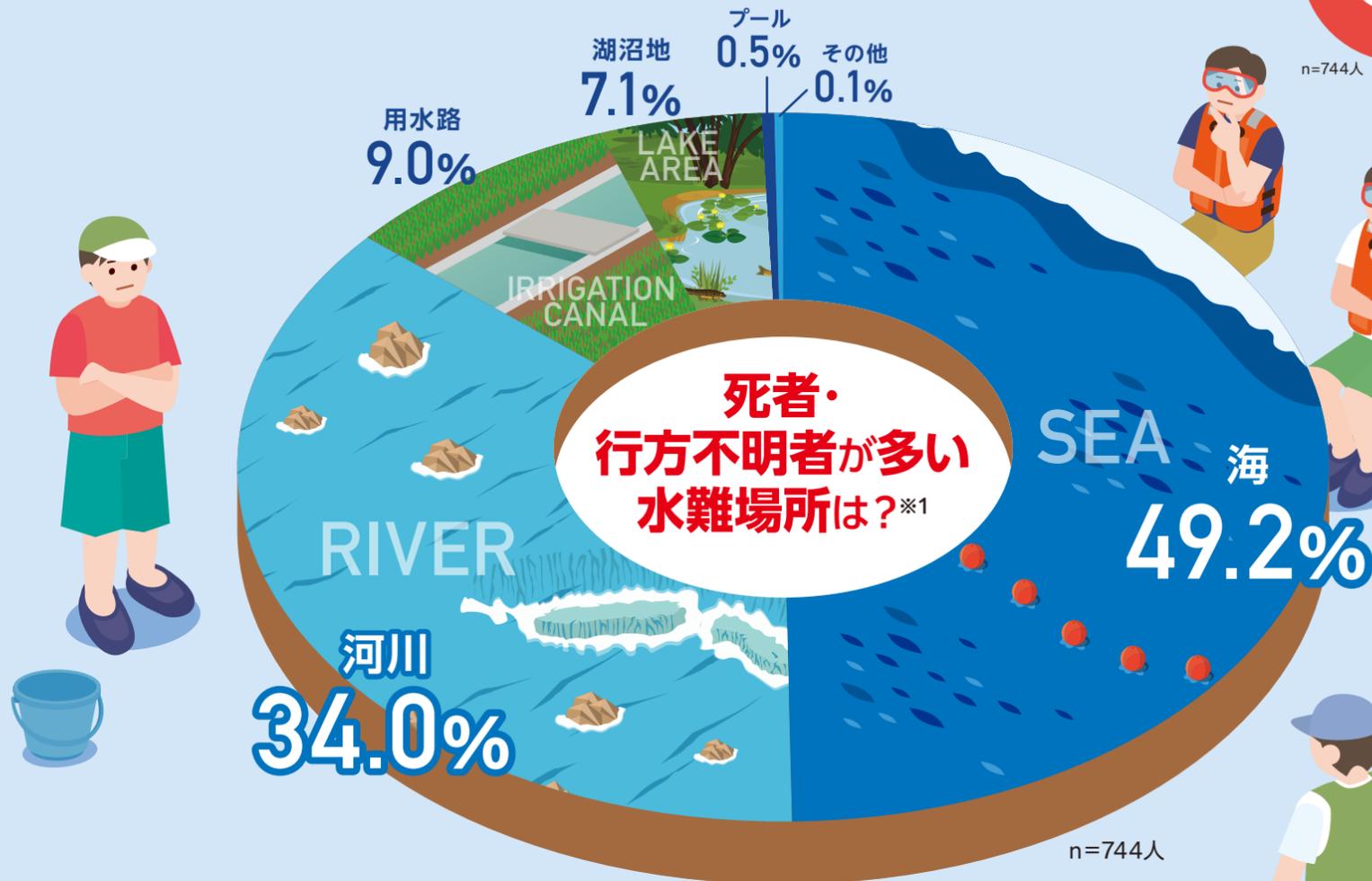
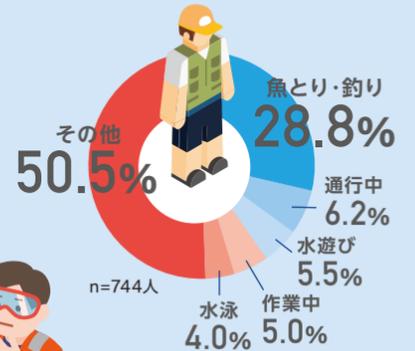
赤十字NEWS 6

Japanese Red Cross Society NEWS

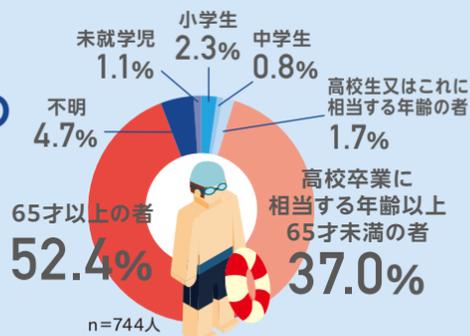
JUNE.2023.#997

梅雨が明けたら夏本番! 意外に知らない!? 水のレジャーにひそむ危険

Q. | 何をしているときに水難事故にあった? ※2



Q. | 死者・行方不明者の年齢層別数は? ※3



特集では...

水の事故!?こんなとき、あなたならどうする? 緊急時の対処法を紹介!!

※1、※2、※3 出典:令和3年における水難の概況(警察庁) (https://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetylife/chiiki/r03suinan_gaikyou.pdf)を加工して作成 ※%は、小数点以下第2位を四捨五入

CONTENTS

特集

緊急時の対処法を紹介!!
水の事故!?
こんなとき、あなたならどうする? 2

TOPICS

令和5年全国赤十字大会を開催 4-5

連載

そのとき、日赤はどう動く!?
国内災害救護 まるわかり辞典 4
献血の歴史やトリビアが満載!
献血なるほどヒストリー 5

AREA NEWS

[高知・石川]
地元スポーツチームや学生とも連携
「赤十字運動月間」のイベントが
各地で/他 6

WORLD NEWS

ウクライナ人道危機、
巡回診療の現場から 8

Present!!!

新村畜産
「黒毛和牛の牛丼
~鹿児島醤油仕立て~ 5個セット」

プレゼント!
3名様
詳しくは
P.7をCheck! >



特集

緊急時の対処法を紹介!!

水の事故!?こんなとき、あなたならどうする?

海や川など、水辺でのレジャーが楽しいこの季節。一方で、水の事故が増える時期でもあります。日赤では、水の事故から大切な命を守るため、「赤十字水上安全法」の講習を行っています。今回はその中から、特に気をつけたいチェックポイントをQ&Aでご紹介します。



赤十字水上安全法の講習「着衣泳」の様子

FEATURE SPECIAL SURF RESCUE



Q. 衣服を着たままだ水に落ちた…どうする?

- 1 衣服や靴を脱いで体を軽くする
- 2 水面上に仰向けで浮いた姿勢を保つ
- 3 体力が失われないうちに岸まで泳ぐ

A. 正解は…2 | 一番大切なのは「浮き身」

一番大切なことは「浮き身(=水に浮くこと)」です。突然の出来事に慌てて、パタパタ動いてしまったり、体に力がはいってしまったりがちですが、それは逆効果。落ち着いてリラックスすることを心がけ、水面上に仰向けで浮いた姿勢を保ちます。衣服や靴を無理に脱ぐことは、体力を消耗してしまうことになるので避けましょう。



Q. 川で流されてしまった…どうする?

- 1 足を下流に向け、背泳ぎの姿勢をとる
- 2 頭を下流に向け、背泳ぎの姿勢をとる
- 3 平泳ぎの体勢をとって、流れに身をまかせ

A. 正解は…1 | 足は下流に向ける。ライフジャケットも正しく着用を

川遊びの際はライフジャケットを必ず着用し、水中で脱げないように正しく身につけるようにしましょう。川底に足がつくような水深でも、石や岩に足を取られて転倒すると、動水圧*で脱出困難な状態に陥ることがあります。そんなときは、足は下流に向け、足先を水面にまで持ち上げた背泳ぎの体勢をとります。

*動水圧とは:水が流れている中での水圧

ライフジャケットの正しい着用方法



(日赤埼玉支部作成の動画より)

河川の危険ポイント

- 1 川底の大きな石などに流れがぶつかってできる。
- 2 2つの流れが合わさるため、急に波が大きくなるなど、いろいろな流れが起きる。
- 3 立ちとうすると足を取られる。また、流れが速いと止まることができなくなる。
- 4 岩の大きさや形、水面の高さによって、いろいろな流れができる。流れの中にある岩に引っかかってしまうと水の重さで動けなくなることも。
- 5 川の流れを緩やかにするためのもの。堰堤の下流側にはいろいろな流れが起きる。
- 6 流されて木に引っかかると、水の重さで動けなくなる。
- 7 川の中で土や砂などが積もっている所。上流の雨やダムの放水で急に水が増えると岸に流れなくなる。
- 8 橋を支える脚の周りでは、いろいろな流れが発生することが多い。引っかかると水圧で動けなくなる。
- 9 ぬれた岩やコンクリートにはコケがありすべりやすい。
- 10 草でまわりがよく見えない場所は、すべてに川に落ちることもある。



海の危険ポイント

- 1 波の力をやわらげるためのコンクリートのブロック。ブロック間のすきまに落ちないように注意する。
- 2 防波堤は外海からの波を防ぐためのコンクリートの壁。棧橋は船をつないだりする場所でも海底も深くはなっている。
- 3 ガラスのかけらや釣り針など、けがをしやすいくみに気をつける。
- 4 潮(しお)の満ち引きで水の高さや流れも変わる。
- 5 岸から沖に向かう流れ。地形や波、風の向きや強さによってさまざまな形になり、つかまると沖に流される。
- 6 海底が急な斜面だと波が一気に大きく崩れる。急に巻きこまれると海底にたたきつけられる。
- 7 波は潮の流れや風などによってできる。波の大きさは海底の違いによっていろいろと変化する。波の高いつきの水遊びや水泳はやめる。
- 8 川が海に合流するところ。流れが強く複雑になっている。
- 9 ゴロゴロした動きやすい石の多い海岸。波をかぶるのですべりやすい。

Q. 溺れている人を見つけた…どうする?



- 1 長い棒、タオルの端などを差し出してつかませる
- 2 勇気を出して、すぐに飛び込んで助ける
- 3 大きな声で周囲に知らせる

A. 正解は…1・3 | 周りに協力を求め、入水せずに距離をとって救助する

自ら入水して助けに行く行為は、溺者に抱きつかれて共倒れになるという、最悪のケースにつながります。抱きつかれない距離で救助するのが原則です。長い棒や衣服、タオルなど、溺者がつかまりやすい長いものを差し出しましょう。救助者は、二次事故防止の観点から、周囲の人の協力を得て体をつかまえてもらい、可能な限り重心を低くして足場を確保し、安全に留意して救助することが必要です。溺者を引き寄せることが難しい場合は、ペットボトルやバグなど、浮き具の代わりになるものを渡して救助を待ちます。

Q. 溺れた人を救出した…どうする?



- 1 うつ伏せで寝かせる
- 2 声をかけ、反応を確認する
- 3 保温する(必要に応じて加温する)

A. 正解は…2・3 | まずは反応を確認し、楽な姿勢に寝かせて保温を

まずは話しかけて反応を確認し、本人が楽な体勢(仰向けor横向き)で寝かせましょう。低体温症にならないよう、体を温めてあげることが大切です。毛布やバスタオル、なければ衣服などで全身を包んで、できるだけ風に当たらない状態を作ります。容態が急変することもあり得るので、様子が落ち着いていても、顔色が確認できる状況で経過観察することが必要です。もし呼吸がない、呼びかけに応えないなどの状態になっていたら至急119番通報をします。

水辺での事故を防ぐには、また、水上安全法の講習について



日本赤十字社 救護・福祉部 健康安全課 武藤 裕美さん

楽しく安全に水辺で遊ぶために、正しい知識を身につけましょう。

水辺で遊ぶ際に忘れてはならないのは、「自然環境で遊んでいる」という意識。天候の変化で水温や流れ、水の色や水の底まで変わるので注意が必要です。監視員のいる安全な水泳場を選ぶことは大前提ですが、自身でも事前に、そして遊んでいる最中にも天候の変化に意識を向けるようにしましょう。「一人では遊ばない」、「体調の良くないときは無理をしない」、「ライフジャケットを身につける」というのも原則です。日赤は「赤十字水上安全法」を通じて水の事故防止の普及に

取り組んでいます。この講習では、水を活用して健康の増進を図り、水の事故から命を守るための知識と技術を学びます。海や川だけでなく、田んぼの水路やため池など、生活圏内にも危険は潜んでいます。事故が起こりやすいスポットや、水の特性と危険性などの知識を身につけましょう。なお、日赤は、要望に応じて小中学校に指導者の派遣もしています。また、講習のメニューの1つとして、「着衣泳」もありますので、詳細につきましては、お近くの日赤支部へお問い合わせください。

Mini Column

T O P I C S



1 TOPICS

令和5年全国赤十字大会を開催 名誉総裁 皇后陛下ご臨席

新緑が目鮮やかな5月18日、明治神宮会館にて令和5年全国赤十字大会が開催され、日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下から、赤十字活動に功績のあった個人や団体に対し有功章の授与などが行われました。

日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下、名誉副総裁である秋篠宮皇嗣妃殿下、常陸宮妃華子殿下、寛仁親王妃信子殿下、高円宮妃久子殿下のご臨席を仰ぎ、令和5年全国赤十字大会が明治神宮会館(東京都渋谷区)で開催されました。

昨年は、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で、規模を縮小しての開催で

したが、**今年はコロナ禍以前と同規模の約1600人が参加。赤十字活動に顕著な功績のあった個人・団体が表彰されました。**皇后陛下は、代表受章者の法人4社、個人9人に有功章を授与。法人1社、個人1人が社長表彰を受けました。

皇后陛下ならびに各妃殿下が熱心に耳を傾けていらっしゃる中、清家篤社長は式



典冒頭のあいさつで、今なお続くウクライナの人道危機やトルコ・シリア地震、さらには国内の自然災害における全国からの温かなご支援への感謝の意を表明。また、日赤国際部国際救援課主事の矢田結さんからは、ウクライナ人道危機の活動報告が、千葉県立四街道高等学校JRC同好会部長・松本有紗さんからは、コロナ禍の非接触型ボランティアについて発表がありました。加えて、5月から日赤のアンバサダーを務める上白石萌音さんからは、「『赤十字は、動いている!』のスローガンとともに、かけがえのない日常を守る日々の活動や、現場の声や思いを多くの方に伝えていけるよう精一杯務めていきます」と決意が述べられました。

実績活動の報告



日本赤十字社
国際部国際救援課 主事
やた むすび
矢田 結さん

ウクライナ人道危機 紛争下生きる人々に寄り添って

日赤は現地ウクライナ赤十字社と協議し、特に日赤の強みである保健医療分野を生かした資機材支援や技術支援を展開。仮設診療所やリハビリテーションセンター支援など避難民に医療を届ける活動を続けています。昨年度、計3カ月にわたるウクライナに派遣された矢田さんは、ウクライナ赤十字社の医師や看護師と共に活動した山間部の巡回診療を振り返り「診療で出会った人々からは、質の高い医療の提供に感謝の言葉が寄せられました。これからも中立・公平な立場で、ウクライナ人道危機の影響を受けている人々への支援を続けていきたいです」と決意を新たにしました。



リハビリ施設にて紛争負傷者のケアを手伝う矢田さん



千葉県立四街道高等学校
JRC同好会部長
まつもと ありさ
松本 有紗さん

「こころの交流」を大切にした 非接触型のボランティア活動

松本さんは、コロナ禍で考案した非接触型のボランティア活動について報告。地元JR四街道駅と連携し、券売機の横に季節感のあるメッセージを掲示。この掲示を通じて、乗降客や地域住民との心の交流が生まれた事例や、特別支援学校や老人保健施設の利用者に向けた活動、生活困窮者へ届けるためのフードバンクの呼びかけなど「こころの交流を大切にしたボランティア」の活動を発表しました。「JRCの態度目標『気づき・考え・実行する』を胸に、コロナ禍でもできることを考え、実践しました。今後は他校にも働きかけ、ワンチームとなって四街道市を思いやりのあふれる地域にしていきたいです」と語りました。



母の日のメッセージポスターを駅に掲示。JRCメンバーと松本さん(中央)

そのとき、日赤はどう動く!?

国内災害救護 まるわかり辞典

日赤の救護活動についてさまざまな角度から紹介するコーナー。

今回は**【通信機器などの救護資機材】**です。

日赤の救護班要員が被災地で活動を行う際には、必需品となるいくつかの救護資機材を持参します。特に、救護活動に欠かすことができないのが**【通信機器】**です。通信機器には、主に**業務用無線**や**衛星電話**などがあり、業務用無線については、迅速かつ適切な救護活動が実施できるように国から2つの専用周波数帯が割り当てられています。現在、日赤では全国で3184局(令和4年3月末時点)を有しており、派遣された救護班と支部などが連絡時に使用しています。また、衛星電話については、一般回線が遮断された状況下においても通話が可能という強みがあり、イン



業務用無線

ターネットの使用に適應した機種もあります。現在、日赤では全国で493台(令和4年3月末時点)を有しています。この他には、マスクやゴーグル、ガウンといった感染症対策用の救護資機材や原子力災害時に使用する線量計などの放射線防護資機材、社会インフラが機能していない場合を想定した発電機や蓄電池、簡易トイレなども整備しています。これらは、救護班要員が安全かつ確実に救護活動を実施することを目的とし、また、**支援する側として被災地に負担をかけない自己完結型での活動を徹底するために考えられています。**

その他

医薬品などの医療資機材と共に被災地には通信機器などの救護資機材も持ち込まれ、いかなる状況でも情報収集や情報発信などにより、救護活動を円滑に進めている。



衛星電話

献血の歴史やトリビアが満載!

献血なるほどヒストリー

vol.3

献血にまつわるさまざまなエピソードを紹介する連載コーナー。今回は、1961年に第一号が誕生した「移動採血車(献血バス)」のお話です。

移動採血車(献血バス)の誕生 「人が人を支える」愛の献血の象徴へ

1960年代、輸血用血液の安全性を高めるため、社会として無償の供血を求める声が高まって、金銭を得るために血を売る人は後を絶たず、赤十字血液銀行(後の血液センター)による採血の実施は苦戦を強いられていました。そんな中、日を追うごとに目覚ましい成果を上げていったのが**「移動採血車」**です。

日赤における第一号の移動採血車は1961年に誕生。郵政省の**「お年玉付き年賀はがき寄付金」**の配分により製作されました。現在の献血バスと比較すると小ぶりな作りで車内の採血ベッドも2床でしたが、稼働から半年で2568人、翌年度は2台目以降が製作され1年で7196人、3年目は車両数が増えたこともあって1万

3853人と、採血実績を上げていき、後の献血推進の閣議決定までに14台が赤十字血液銀行に配備されました。工場、事業所、学校など集団献血が可能な場所に向かうことができ、行った先々では献血者の募集をアピール。その有効性を国も認知し、1964年の閣議決定で国庫の追加補助が確定、誕生からわずか3年3カ月で合計41台の移動採血車が日赤の管理下に配備されました。

1964年11月、移動採血車の名称について、一般の方々の投書が全国紙に掲載されました。「**愛の血液助け合い運動**」のスローガンにふさわしくない。(中略)多くの人の生命のため各人の大切な血液をさし出すのにぴったりした名は



初期の移動採血車(1961年頃)

ないものか」。その意見に対し、後日、別の読者から「**「愛の献血車」**としたいかがですか」と。これらの新聞投書もきっかけとなって通称が変更され、同年12月23日に血液センターに配備された採血車には「**愛の献血車**」の表示が。以降、各地を巡回する「**愛の献血車**」は、互いに支え合う社会の象徴ともいえる存在になりました。

AREA

エリアニュース

NEWS



全国各地、あなたの生活のすぐそばで日本赤十字社の活動は行われています。

岐阜

「2023高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン」で医療救護活動を実施



4月23日、「2023高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン」に日赤岐阜支部(岐阜赤十字病院)の救護班が派遣され、医療救護活動を行いました。感染防護具の装備や傷病者の密集を避けるなど感染対策を行った上で、嘔吐や筋力いれん、骨折疑いなどの傷病者やゴール付近で力を使い果たして倒れたランナーなど、救護所に搬送された選手たち計23人の応急処置を行いました。

高知・石川

地元スポーツチームや学生とも連携「赤十字運動月間」のイベントが各地で



5月は赤十字運動月間。日赤の活動を広く紹介し、継続的な支援をお願いすることを目的として、各支部でさまざまなイベントが開催されました。

4月22日、運動月間に先駆け、日赤高知県支部は「赤十字運動月間啓発パレード」を実施。今年で5回目の開催となり、総勢200人を超える地域赤十字奉仕団や青少年赤十字(JRC)の学生たちが、「やさしさと生命をつなぐ赤十字」の横断幕を掲げて笑顔でパレード。終着地点の帯屋町中央公園では、土佐女子中学・高等学校吹奏楽部による演奏の中、JRCの学生らによる募金活動が行われました。

石川県では4月30日にプロサッカーチーム・ツエーゲン金沢がホームゲームを「日本赤十字社応援試合」として開催。試合前には日赤石川県支部長・馳浩県知事がスタジアムで挨拶し、5月の赤十字運動月間を説明しました。馳知事は金沢駅の名所「鼓門」のレッドライトアップ(下記参照)も紹介したほか、会場で募金を呼びかけました。

宮崎

「災害時も栄養満点の温かい料理を」炊き出しの入賞レシピがこの1冊に



災害時の食の要となる「炊き出し」。昨年、日赤宮崎県支部では、災害時の食の大切さと備えの意識向上を目的として「赤十字炊き出しコンテスト」を開催。今回、そのコンテストの受賞メニューが「防災飯～ポリ袋調理編」として1冊にまとめられました。炊き込みご飯やハンバーグ、そしておやつなど、市販もされている炊飯袋「ハイゼックス」を使ったレシピは、災害時だけでなく、アウトドアでも活用できます。ぜひこの機会にお試しを。

「防災飯」ブックレットのダウンロードはこちらから



千葉

AEDについて、知っていますか？普及動画の制作に全面協力



動画はこちらから



日赤千葉県支部は、千葉県の公式YouTube動画「AEDについて知っていますか？」の制作に協力。命を守る救急法の普及を推進する日赤として、動画全体を監修し、経験豊かな指導員を出演者として派遣しました。この動画は、急病人に遭遇したときの対処法から心肺蘇生、AEDの使い方、AEDの設置場所の検索方法まで、いざというときのために知っておきたい情報が9分弱に凝縮されています。一人でも多くの命を救うために、ぜひチェックしていただきたいコンテンツです。



世界の課題を体感できる、名作ショートフィルム「戦争と生きるカプログラム supported by 赤十字」

詳しくはこちらから



今年で25周年を迎える、米国アカデミー賞公認の国際短編映画祭「ショートショートフィルムフェスティバル & アジア 2023」。赤十字国際委員会(ICRC)がサポートする「戦争と生きるカプログラム」もリアル&オンラインで公開。リアルでは6月22日、表参道スペースオーにて上映、オンラインでは6月6日から26日まで。詳細は右上の二次元コードから。

「希望のかけ橋」



1920年、日赤が保護したポーランド孤児との交流を描いたアニメーション。本作の公開は表参道会場のみ(オンライン配信無し)。

「令和5年5月能登地方地震災害義援金」受け付け中

令和5年5月5日、石川県で発生した能登地方地震。この地震では最大震度6強が観測され、石川県3市町(輪島市・珠洲市・鳳珠郡能登町)に災害救助法が適用されました。日赤はすぐに現地に職員を派遣し、救護物資の配布や、看護師による在宅避難者の戸別訪問など、さまざまな支援を行っています。日赤では、被災地の方々の生活を支援するため、義援金を受け付けております。お寄せいただいた義援金は、全額を石川県が設置する義援金配分委員会にお送りいたします。皆様のご支援をお待ちしております。

受け付け中
令和5年5月能登地方地震災害義援金
受付期間:令和5年9月29日(金)まで



上)被災地に救護物資を搬送する石川県支部職員、下)被災地域の在宅避難者を戸別訪問する日赤看護師(石川県珠洲市)

世界赤十字デー レッドライトアッププロジェクト



横浜マリントワー(神奈川県)

松江城(島根県)

5月8日の「世界赤十字デー」を中心に、ランドマーク施設が赤十字のシンボルカラーに染まる「レッドライトアッププロジェクト」。今年は、15の新しい施設も加わり、全50カ所のランドマークや企業が参加。苦しみに寄り添う赤十字の精神を伝え、自然災害や情勢不安による苦難を共に乗り越えることを願い、各地で赤い光が輝きました。

【レッドライトアッププロジェクト実施施設】

青森県	津軽ダム 八戸市多賀多目的運動場 むつエダアリーナ 北の防人大湊 海望館 大橋	長野県	長野赤十字病院 安曇野赤十字病院
秋田県	ポートタワーセリオン	岐阜県	岐阜県庁舎 岐阜市庁舎 大垣市役所 庁舎前戸井小屋
山形県	浄土宗 常安寺	京都府	京都府庁 旧本館 舞鶴赤十字病院
群馬県	臨江閣 富岡製糸場 草津温泉湯畑	兵庫県	京都府赤十字血液センター 人と防災未来センター 明石海峡大橋
神奈川県	神奈川県庁 本庁舎 横浜市庁舎 横浜マリントワー 象の鼻パーク よこはまコスモワールド「コスモロック21」 小田原城 大船観音寺 アミューあつぎ	島根県	松江城 山陰中央テレビジョン放送局【鉄塔】
富山県	NHK富山放送局 働インテック 本社	山口県	海峽ゆめタワー
石川県	金沢駅第六公園 鼓門 入道の港 敦賀ムゼウム	愛媛県	今治国際ホテル しこちゅーホール 今治市公会堂
福井県	吉岡幸徳テクノセンター 山梨県	高知県	高知城
山梨県	山梨県庁 別館	福岡県	福岡市赤煉瓦文化館 旧福岡県公会堂貴賓館 三池炭鉱宮原坑
		佐賀県	久光製薬ミュージアム 唐津市近代図書館
		宮崎県	宮崎県庁 本館
		鹿児島県	山形屋 アミュプラザ鹿児島【アミュラン】

Present!!

黒毛和牛や食を通じて、幸せの時間を一人でも多くの方へ



地元の小中学生に牧場を中心とした職場体験を提供

「全ての人へ、感謝をエネルギーに!」という理念のもと、鹿児島から安全かつ高品質な畜産品を提供している新村畜産。ICTを利用した自社の牧場経営をはじめ、地元の生産者とのつながりを大切に、地域一体となって「鹿児島県黒毛和牛」の生産にも取り組んでいます。また、障害のある方も農業を通じて活躍できる「農畜連携」にも力を入れ、障害者就労支援事業所「サポートかのや」に協力して就労支援を行ったり、地元の小中学生に職場体験の機会を提供するなど、未来に向けて共生社会の発展につながる活動にも力を入れています。同社は2021年から赤十字サポーターに加入し、継続的に日赤の活動資金へ寄付。直営店の店頭の日赤の募金箱を設置するなど、赤十字活動に対し積極的に協力しています。



パートナー企業

新村畜産

黒毛和牛・焼肉専門 新村畜産

3名様

黒毛和牛の牛丼
～鹿児島醤油仕立て～
5個セット



プレゼント希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・WEBでご応募ください。
①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤赤十字NEWS6月号を手に入れた場所(例/献血ルーム) ⑥6月号特別アンケートの回答(質問項目は右上の赤枠内)

※ご応募いただいた個人情報はプレゼントの発送および弊社からのお知らせのみに利用いたします

郵送/〒105-8521東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS6月号プレゼント係
WEB応募/右の2次元コードからご応募ください。
6月30日(金) 必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

ご応募はこちらから



〈6月号特別アンケート〉質問項目

- [A] 赤十字の活動の中でよく知っている事業はどれですか
ア. 国内災害救護 イ. 国際活動 ウ. 赤十字病院
エ. 看護師等の教育 オ. 献血(血液事業)
カ. 救急法等の講習 キ. 青少年赤十字
ク. 赤十字ボランティア ク. 社会福祉
※上記選定からア～ケの文字をご記載ください。複数選択可
- [B] 今回、赤十字NEWSを読んで、赤十字の活動の中で理解が深まったのは上記ア～ケの事業のどれですか
※複数選択可
- [C] 赤十字NEWSの適切な大きさは
ア. 今のまま イ. A4サイズ
ウ. 小冊子(A5 148×210mm)サイズ
- [D] 現在の赤十字NEWSの読みやすさ
ア. 読みやすい イ. 読みにくい:その理由(文字量が多い/少ない、レイアウトが悪い、写真が多い/少ない、ページ数が多い/少ない)
- [E] 赤十字NEWSの発行回数は何回がよいですか
ア. 月に1回 イ. 2カ月に1回 ウ. 3カ月に1回
エ. 4カ月に1回
- [F] その他、赤十字NEWSに関するご意見、ご要望



ウクライナ イヴァノ=フランキウスク州ってどんなところ？

ウクライナの西部、ルーマニアとの国境にも接する州。南部には複数の国立自然公園や山脈が広がる。州の中心にある市街地を離れると、アクセスが難しい山間部にも町や村が点在している。それらの町村で、武力紛争の前線である同国東部から逃れてきた多くの人々が避難生活を送っている。



国内避難民に対する医療支援についての現地レポート

ウクライナ人道危機、巡回診療の現場から

戦禍を逃れ、多くの人々が避難生活を送るウクライナ西部のイヴァノ=フランキウスク州。日赤は3月から現地へ職員を派遣し、ウクライナ赤十字社の巡回診療事業を支援しています。同事業をサポートしている薬剤師の仲里泰太郎さんに現地の状況について聞きました。



仲里さんがウクライナで携わっている活動内容を教えてください



私は今年の3月からイヴァノ=フランキウスク州でウクライナ赤十字社が保健省と共同で展開している巡回診療事業をサポートしています。この事業は、特に山間部など医療アクセスが難しい地域の7~8カ所の町や村に、医師や看護師、薬剤師などで構成される5つのチームが医薬品などを車に搭載して巡回するもの。医師が常駐していない地域が多く、実際に巡回診療を行うと長蛇の列ができます。受診者は高齢者が多く、ストレスにさらされていることなどが原因で、心疾患や高血圧の割合が多いため、必要な医療機器を調達するなど現場で必要とされていることに逐次対応をしています。



巡回診療事業を行う上での成果や課題はありますか



巡回診療チームは国から医療機関としての承認を受けているわけではないので、医療行為に限りがあります。また、巡回チームの医師は、診察時に武力紛争の最前線での過酷な体験を聞かされる機会が多いため、大きな心労を抱えることもあります。避難してきた彼らの話は、聞くだけでとても苦しくなるものばかりです

が、語り始めると思いが抑えきれず話が止まらない方や泣きだす方もいて…。極限のストレスを感じている人々のために、身体だけでなく心のケアが必要であることを痛感させられました。



そのような状況で、現地の人々に赤十字の活動はどのように受け入れられているのでしょうか



避難民の多くは、見知らぬ土地で、職もなければ頼れる人もいませんが、それでも生きていくために日々を懸命に過ごしています。自ら外に出向いていくことが難しいため、避難している集合住宅などに赴く巡回診療チームは大歓迎されています。ある避難民は支援に来てくれたことへ感謝を伝えたいと、少ない所持品の中から、彼が信仰する御守りとコップを私にプレゼントしてくれました。

また、巡回診療メンバーを通じて、子どもたち十数人に日本のことを話す機会がありました。そこでは、子どもたちが日本の場所を知っているのはもちろん、桜をウクライナ語ではなく「サクラ」と話しているのを聞き、想像よりはるかに日本を身近に感じていることに驚かされました。子どもたちからは「なぜ日本は大きな地震があったのに復興しているのか」と聞かれました。

「日本はさまざまな災害が多く、何度も水害や津波、地震で全てを失ってきた。そのたびに立ち上がって、乗り越えてきたんだよ。だから僕は、君たちも、きっと乗り越えることができる」と信じている」と伝えました。そのときの子どもたちの真剣な眼差しが印象的でした。同チームの中には自身も東部から逃れてきたメンバーもいて、苦しい状況だと想像しますが、前を向いて支援活動を続ける姿に、こみ上げるものがあります。



避難生活を送る人々にこれからどのような支援ができるでしょうか



避難されている方々は3~4人に一部屋があてがわれているというプライバシーのない環境下で生活を続けています。また、もともとこの地域に住んでいるメンバーは自分たちができる限りサポートしたいという思いで業務を遂行しています。長引く避難生活を支援すべく、中長期的に巡回診療や資金協力などの面で支援を継続していければと思います。これまで救援金などで支援して下さったみなさまの思いは十分に届いていますので、これからも引き続き現地の人々への思いを持ち続けていただければ幸いです。



仲里 泰太郎
(なかざと やすたろう)

大阪赤十字病院 薬剤師

2022年にウクライナ西部ウジュホロドでウクライナ赤十字社が運営する仮設診療所を支援。2023年3月からイヴァノ=フランキウスク州での巡回診療事業等に携わる。



山間部の村には医療施設がないため、健康不安を抱える高齢者の体調チェックは喜ばれている



リハビリセンター兼シェルター施設にキッチン用品を届けた仲里さん(左)。避難民を受け入れている施設では、あらゆる物資が不足している



仲里さんは巡回診療のチームに可能な限り同行し、円滑なコミュニケーションや支援活動ができる基盤をつくることにも注力した